

ちょうさ

ハグロトンボを調査してわかること

ヨシなどの水生植物がある穏やかな水路や川の中で、1~2年ほど幼虫のまま暮らします

はる春

幼虫

羽化

なつ夏

あき秋

オス

ハグロトンボが暮らすには、水草の豊かな水辺と、樹林などの緑地の両方が必要です。調査をすることで、市内の水と緑のネットワークの広がり分かります。

羽化してすぐの若い成虫は、水辺から離れた緑地で暮らします

成熟した成虫は、緑地から流れのある水辺に戻り、植物に産卵します

卵は、産みつけられてから約2週間ほどで孵化し、幼虫になります

卵

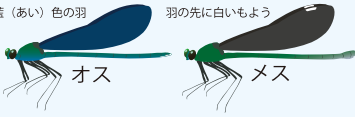
ハグロトンボは、すみかである川の改修などが原因で、全国的に数が減っています



そっくりさんのアオハダトンボ

藍(あい)色の羽

羽の先に白いもよう



オス

メス

オス・メスともに体は金属(きんそく)のように光ります

わたしたちの暮らしとハグロトンボ

お盆の前後に見かけることから、京都では、ハグロトンボのことを先祖の魂を意味する「お精霊(しょうらい)」トンボとも呼びます。

